



8・二階耕太

意識高い系 介護職員の 成長について



☆協ラストッフ

- ▶男性
- ▶28歳
- ▶介護経験 6年
- ▶介護福祉士



1, 背景 「現状」

- ▶ **自己完結型**
- ▶ **他スタッフへの情報共有不足**
- ▶ **画一的な内容へ変更**



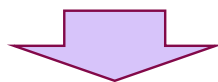
1, 背景 「原因」

- ▶ **チームケアの理解不足**
- ▶ **BPSDに影響する要因間の関連性の理解不足**
- ▶ **パーソンセンタードケアの必要性の理解不足**

1, 背景 「問題」

- ▶ 間違った介護の常習化により
認知症介護の質の低下
- ▶ チームのモチベーション低下


目的達成



事業所全体の認知症介護の質の向上



利用者の満足度向上



1, 背景 「現状：実習者」
(11/21同意形成時にて追加)

▶ 指示的な説明が多い

▶ 相手の理解度を確認していない



1, 背景 「原因：実習者」
(11/21同意形成時にて追加)

▶ 同じ目線で考えることができていない

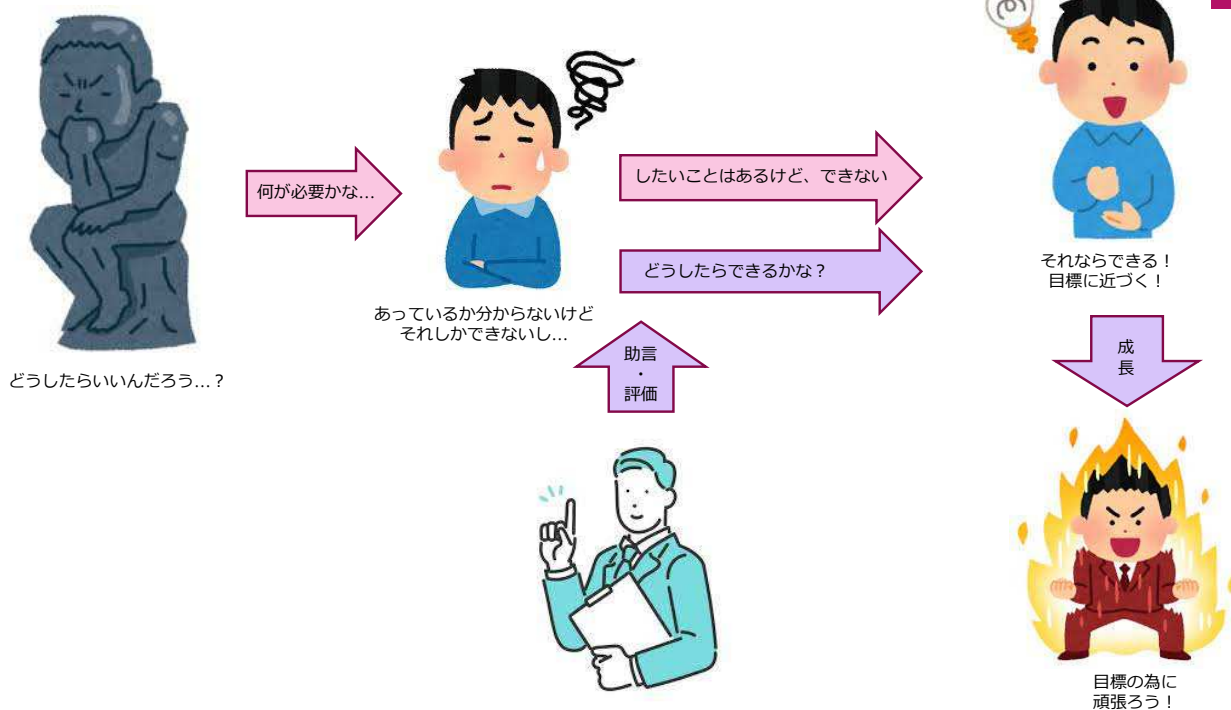
▶ 相手を理解できていない

1, 背景 「問題：実習者」 (11/21同意形成時にて追加)

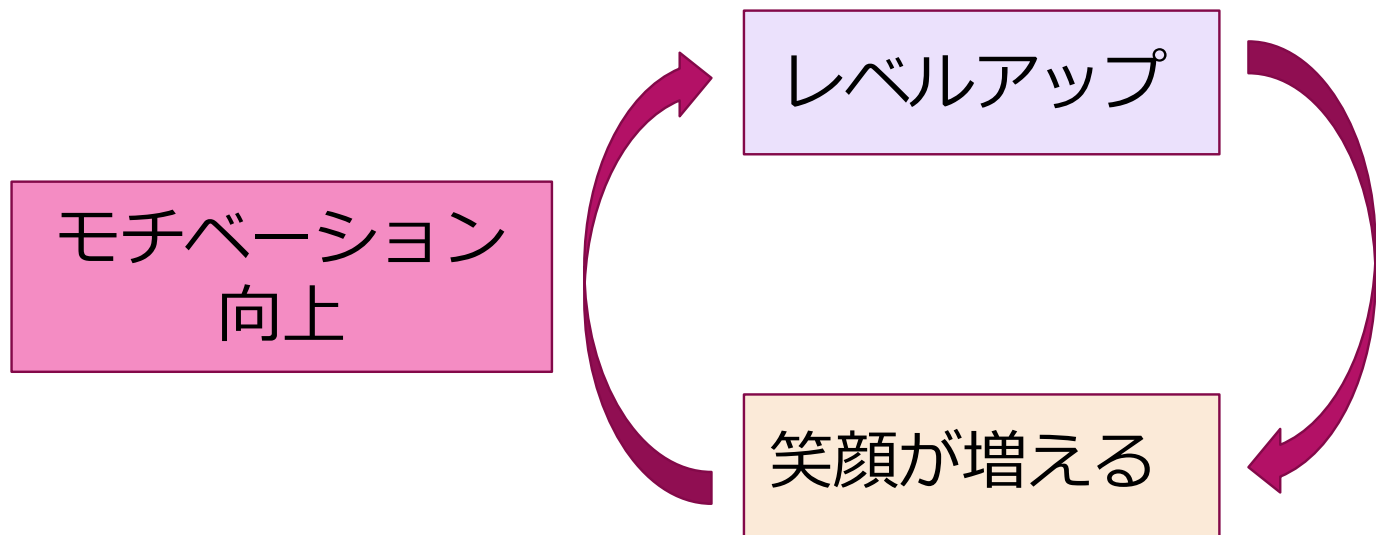
▶内発的動機を妨げてしまう

▶モチベーション低下

協力スタッフ



「問題が改善した姿、
利用者や職員に与える良い影響」



分析

ステップ1

課題を通しての協力スタッフの観察を行う。（アセスメント）

- ▶ 1. BPSD出現時の対応方法観察 : 対応観察
- ▶ 2. BPSDの発生要因の理解があるか : ミニカンファレンスにて確認
- ▶ 3. 認知症の理解度確認(チームケアの理解) : アセスメント表
- ▶ 4. パーソンセンタードケアを無視したケアを行う理由確認
: 事例を用いて面談
- ▶ 5. 画一的なケアによる利用者へ与える影響についての理解
: 事例を用いて面談

協力スタッフの目標設定

▶ 自分が目指す介護福祉士とは…

「専門的な技術と知識を活かした
介護福祉士になりたい」

▶ 認知症の方が求めるケアとは…

「自分らしさを出せるケア」

そのためには何が必要？

合意形成

- ▶ 認知症介護についての知識と対応方法を学ぶ
- ▶ BPSD出現についての理解と対応方法を学ぶ
- ▶ 認知症の症状や病気について理解し、他職員へ伝えることができる事
- ▶ チームケアの必要性を理解し、実践できる事
- ▶ BPSDに対する知識を付け、他職員へ説明、提案できる事
- ▶ 自分が望むことをできる事
- ▶ 病気になっても今までのように過ごせる事

方法 ステップ3 指導付きで実施（実践する。）

①

☆自己管理型チーム形成

- ・対象利用者を決めて、協力スタッフと一緒にアセスメントを行い、着眼点を理解し、
パーソンセンタードケアに基づいたアセスメント方法を説明していく。（随時）
- ・BPSDの基礎知識の理解を促すために、協力スタッフのみ研修資料を用いて
説明を行う。
- ・パーソンセンタードケアの必要性の理解を促すために協力スタッフのみに
勉強会を開催し、OJTを用いて習熟度を確認する。

方法 ステップ3 指導付きで実施（実践する。）

②

- ・認知症の方が求めるケアを実践するために、具体的にどうするべきを
協力スタッフ中心にチームで話し合う。
（現状発生している、BPSDの発生回数、内容の確認）
- ・面談時にはスーパーバイザーで現状の理解度を確認しながら、考えを促す。
（コーチング技法）

結果

ステップ4

(協力スタッフ)

- ・OJT … **点数向上**
- ・BPSDの出現回数 … **減少**
- ・スタッフアンケート … **意欲向上**
- ・ケアカンファレンス … **専門性の向上、チームケアの向上**
- ・ケア記録 … **根拠を用いたケア**

結果

ステップ4

(実習者)

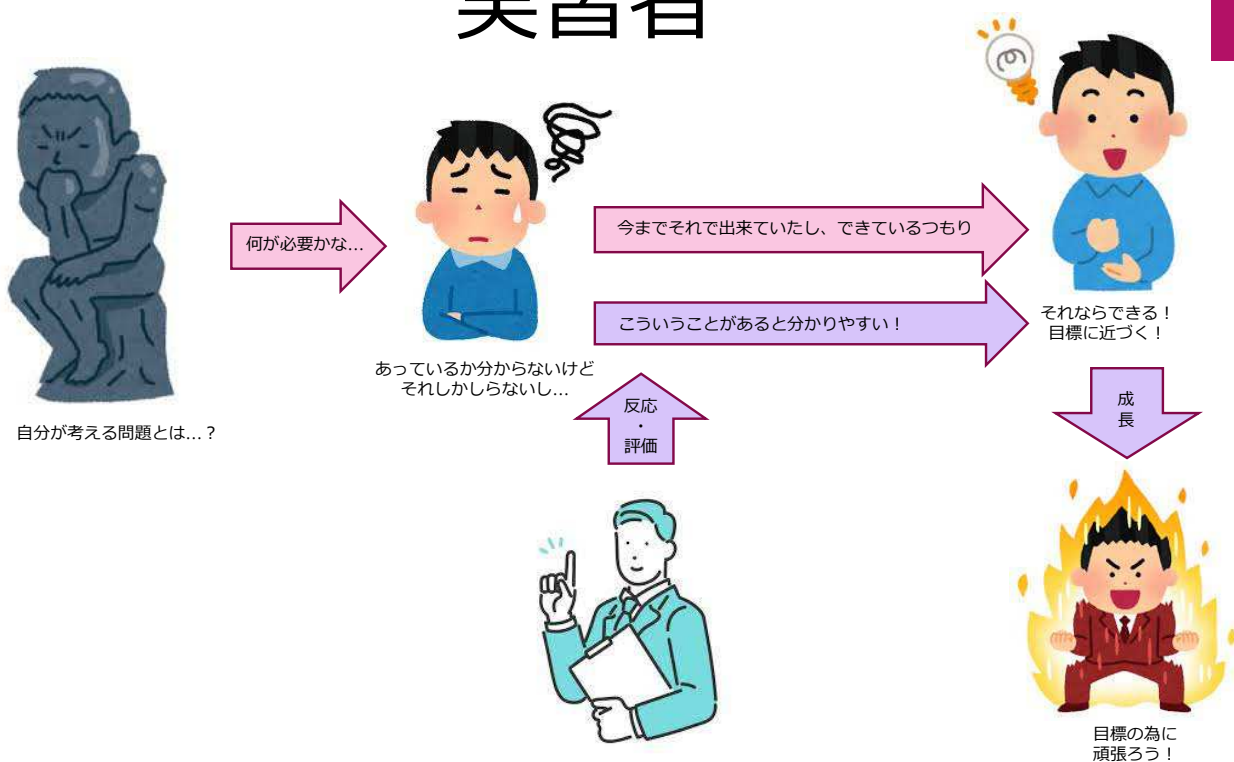
- ・実習者評価表 … **面談してもらってよかった、と思ってもらえた。**

実習者も成長したのかな…？

考察

- ・「**PDCAサイクル**」は重要
- ・他者の**協力(評価)**は不可欠
- ・協力スタッフと共に、**実習者も成長した**

実習者





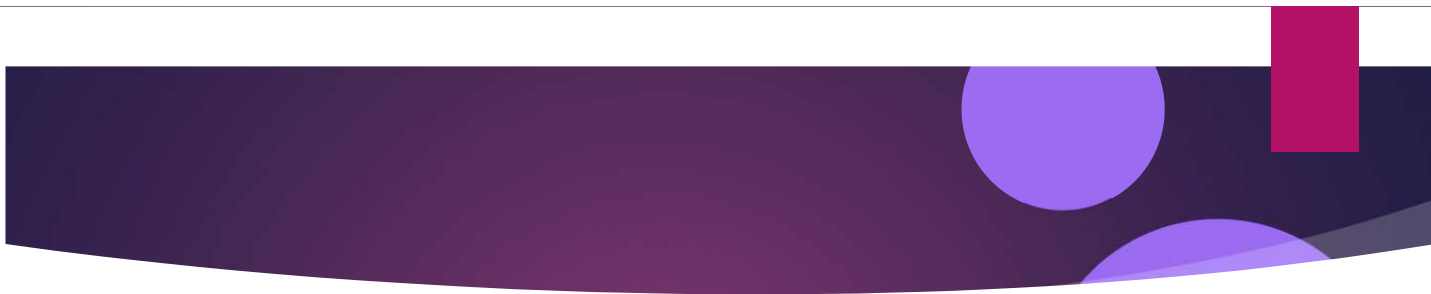
意識高い系の介護職員とは…

実は…「実習者」だった！



残された課題

- ・「PDCAサイクル」の展開方法
- ・定期的な評価(**リフレーミングによる称賛**)
- ・定期的な勉強会の開催



ご清聴ありがとうございました。